

平成23年7月11日開催

## 総務常任委員会資料【所管事務調査】

13区地域協議会の意見・意向のまとめ . . . . . 1～2

|       |         |
|-------|---------|
| 所管委員会 | 総務常任委員会 |
| 提出課   | 企画課     |

13区地域協議会の意見・意向のまとめ

|      | 確定時点          | 地域事業費制度の見直しについて  | その他の意見  |
|------|---------------|--|---|
| 安塚区  | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費枠は、合併時の一つの約束であり、合併前の旧市町村の総合計画を担保したものと認識していたが、合併から6年が経過し、当区においても、事業費枠に起因する様々な課題や、少子高齢化が進む中で、今後の新たな地域要望、地域振興にどう向き合うかを考え合わせて協議してきた結果、従前の地域事業費枠の廃止はやむを得ない。これからは、これからの方法で進めていってほしい。 |   |
| 浦川原区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○合併前の不合理を多く抱えての合併であり、先人の合併への苦悩についてはよしとしなければならぬ。合併から約6年経った現在、地域事業費制度の見直しにより、新しい上越市の今後の歩みをしていかなければならない。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総ざらいでは公民館事業を含め9件の見直し対象事業があり、8件について現地視察を実施し、8件について「廃止」「見直し」について了解した。</li> <li>・この中で道路整備の廃止が3件あげられ、暮らしに必要なではないかという意見もあったが、現地を視察して廃止しても支障のないことを確認した。</li> <li>・見直し対象については了解したが、今後、予算付けや制度化、合理化してゆかねばならないことも多々あり要望と同時に討議に入っている。</li> <li>・見直しが必要と考える行政の課題を、例を挙げて指摘する。<br/>①少子高齢化での公共交通体系の見直し、②縦割り行政の改革（送迎等のバス運行に現れている）、③少子化での学校の配置問題、④合併前の教育施設等の老朽化したものの処理、⑤指定管理者制度に早急に移行したほうがよい施設もある など</li> </ul> |
| 大島区  | 6月30日<br>意見書  | ○地域事業費枠を撤廃することは、諸般の状況に鑑み、やむを得ないものとする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「全市的な視点で優先度を設定」とのことだが、単に経済効果・費用対効果といった基準で判断するのではなく、過疎・豪雪地帯の振興及び限界集落を元気にするための施策等に配慮した「視点」をもって優先度を設定してほしい。その際は、各区における優先順位にも配慮願いたい。</li> <li>・総ざらいで「実施時期の見直し」との評価を受けている地域事業「市道岡線・下岡橋架替工事」については、幅員が狭いため、冬期間除雪作業に支障をきたすとともに、スリップ等により人と車のすれ違いが非常に危険であることから、架け替えは地域住民の悲願であり、1年でも早く着工してほしい。</li> </ul>  |
| 牧区   | 6月22日<br>意見書  | ○地域事業費枠の撤廃を含む地域事業費制度の見直し案について、合併以降の社会情勢の変化や市の財政状況を鑑みれば、見直しもやむを得ない。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見直し案では、事業執行に当たっては「全市的な視点で優先度を設定する。」とあるが、経済効果や事業効果など、いわゆる費用対効果のみを基準とすると、人口の多い所に事業が集中するのではないかと、また、過疎地域は追いやられていくのではないかと、この危惧を牧区住民は持っている。</li> <li>・牧区は過疎地域に指定されており、その点に配慮するなど、地域の実情を反映できるような仕組みを構築し、決して周辺部の切り捨てにならないようにしてほしい。</li> </ul>   |
| 柿崎区  | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費の見直しについては、やむを得ないものとする。また、見直しのイメージは、概ね了とする。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい制度の運用に当たっては、全市的な視点で優先順位付けがなされて事業実施されるものと理解しているが、その優先順位の評価に際しては、柿崎区の住民が納得できる基準を設けるよう要望する。</li> <li>・地域事業を対象に含めた事務事業の総ざらいについては、合併時の約束を反古にされる不安や不満が多く出され、また、地域協議会と協議せずに行政サイドで一方向的に廃止するといったことについては反対する。</li> <li>・市の財政状況が厳しいことは理解しており、地域協議会として、地域事業の個別の事業の必要性の検証をしていく必要があると考えている。</li> </ul>   |
| 大湯区  | 6月30日<br>意見書  | ○今までの経過や運用してきた中で、見えてきた制度が抱える課題等について、市から説明を受け、協議を重ねてきた。その結果、制度見直しについては、一定の理解をする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域を元気にするために必要な提案事業」について、提案内容や進め方など具体的なものが示されていないため、地域協議会の関わりが見えない。進め方や地域協議会の役割を示してほしい。</li> <li>・「全市的な視点で優先度を設定する」際に、経済効果や事業効果などを基準とすると、中心部に事業が集中し、周辺部の事業が減ることにより取り残されるのではないかとこの危惧があるため、優先度の設定についても具体的な設定方法を示してほしい。また、地域の実情が反映できる仕組みを入れてほしい。</li> <li>・（総ざらいで廃止等と評価した地域事業であっても、）地域及び地域協議会が必要とする地域事業は、全て期限を定め必ず実施していただきたい。</li> </ul>   |

|     | 確定時点          | 地域事業費制度の見直しについて  | その他の意見   |
|-----|---------------|--|--|
| 頸城区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費制度の当初示されたイメージが見直され、新たな仕組み「②地域を元気にするために必要な提案事業」で地域協議会と市が連携して事業提案ができることとなったため、4月21日の地域協議会で1人の反対はあったが、その他の委員は地域事業費枠の廃止はやむを得ないという方向になった。   |  |
| 吉川区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○2、3人の委員からは枠の撤廃を懸念する声はあるものの、合併から6年が経過し、様々な課題も見えてきており、地域事業費制度の見直しはやむを得ないという意見が大勢である。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「②地域を元気にするための必要な提案事業」を積極的に組み入れ、地域が輝く仕組みとしてほしい。</li> <li>・全市的視点で優先度を設定することだが、事業執行に際しては、過疎指定地にあつては、その趣旨を組み入れた優先度としてほしい。</li> </ul>   |
| 中郷区 | 6月24日<br>意見書  | ○地域事業費は、合併時の一つの約束であり、合併前の旧町村の総合計画を担保したものであり、基本的には中郷区の事業費枠を堅持すること。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず、地域事業費枠を撤廃する場合は、地域の特性を活かし伸ばすために、(総ざらいで廃止等と評価した地域事業であっても、)中郷区で必要な地域事業を実施すること。</li> <li>・「地域を元気にするための事業を全市的な視点で優先度を決定する」とありますが、投資が中心市街地に集中し、中郷区の事業が採択されないということがない仕組み、地域住民の皆さんも納得できる仕組みを策定すること。</li> </ul>   |
| 板倉区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費制度は、市町村合併に当たり、新市建設計画策定の協議の中で、編入される13町村の総合計画を新市建設計画に反映させることを目的に合意が図られたものであり、合併後の上越市として最大限尊重すべきものと認識している。<br>○合併後の社会情勢の急激な変化や経済状況の悪化は、地域事業費制度を維持する前提となる市の財政フレームに大きな修正を余儀なくさせるものであり、上越市全体の維持・発展のために、地域事業費制度の最小限の見直しはやむを得ない。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各区における地域事業の執行状況に著しい格差があり、合併前上越市の地域事業費が平成24年度で100%を超えてしまう中で、一律に事業費枠を撤廃させるようなことは納得いかないとの意見もある。板倉区は地域事業費の執行率が低いことに加え、総ざらいで33件の地域事業が廃止や見直しの対象となっていることを踏まえ、特定の地域が不利益を被らないように配慮してほしい。</li> <li>・「全市的な視点で優先度を決定する」とされているが、上越市一律の基準で判断された場合、区の事業は実質的に何も進まなくなるのではないかと懸念している。例えば13区の中での比較検討を行うなど、地域の実情を反映した事業採択ができるような仕組みとなるよう強くお願いしたい。</li> </ul> |
| 清里区 | 6月27日<br>意見書  | ○行政サービスの均衡を図るための事業は確実に実施されることや地域からの事業提案の仕組みが出来ることから、見直しはやむを得ない。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域事業に登載されている事業以外にも、現在の行政サービスを維持するため早急に改修・更新が必要な事業があるが、制度の見直し案では、全市的な視点で事業の優先度を設定とあり、合併前上越市の事業、特に中心部の事業が優先され、当区の事業が後回しになるのではないかと懸念している。</li> <li>・清里区の実情をご理解いただきつつ、均衡ある上越市の発展のため、中山間地域への特別な配慮がなされるようお願いしたい。</li> </ul>  |
| 三和区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費枠は合併時の一つの約束事であり、堅持していただきたい。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域事業費は合併後10年間の当地域の将来を託し、約束された内容であり、配分枠内に収めるべく協議を重ね事業を実施してきた経緯があるので、仮に、事業執行に際し、平成26年度までに全ての事業の完了が、無理だとしても、周辺地域が取り残されることのないように配慮してほしい。</li> </ul>  |
| 名立区 | 6月1日<br>意見交換会 | ○地域事業費制度については、合併の風潮が加速化される中で、地域が取り残され、埋没することを危惧し、先が読めないままに時代の流れに乗り遅れないように盛り沢山の事業を満載した経緯があったことを、反省も含めて懐古している。<br>○合併から6年が経過し、事業の総ざらいや地域事業費制度の見直しを行うことに理解を示す。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協議会は、当初の指導で、個々の地域自治区のことのみを対象にミクロ的な視野の中での活動が求められてきたが、時の経過とともに全市域の将来像を見据え、いわゆるマクロ的な観点に立って、それぞれの地域自治区が何をどうすべきかを協議するべきものと変化してきたのではないかと懸念している。</li> <li>・今後、市長をトップとする行政では、各地域自治区との連携を今まで以上に密にし、更には情報の開示についてもさらなる努力を求めたい。</li> <li>・各種事業の執行に当たっては、合併前上越市を中心とした人口密集中に偏在させることのないよう、各区の実情を正確に認識した上で、大所高所からの対応を切に望む。</li> </ul>                  |